

〔V〕「論文」試験の解答のポイントと解答例

採点基準

採点基準は、次の2点である。

- ・ 論点的的確性、内容の深さおよび論旨の一貫性。
- ・ 論題の趣旨に合った解答が、600～800字にまとめられていること。

解答のポイント

今年度の論文試験の論題は、“「サステナビリティ」の社会的意義を説明しなさい。その上で、繊維関連産業におけるサステナビリティの取り組みを進めるにはどのようなことをしていくべきか、あなたの考えを述べなさい。”であり、“サステナビリティの社会的意義の説明”と“サステナビリティの取り組みを進めるにはどのようなことをしていくべきかについての受験者本人の考え”の大きく2つのことが問われている。解答にあたっては、たとえば、現状の取り組みの課題をどのように克服していくべきか、取り組みをどのように運用していくべきなのか、あるいは、未来に向けた自分の考えを述べるなど、受験者の認識や考えで自由に解答できる問題であるが、これら2つの問いをしっかりと理解した上で、論点的的確性、内容の深さおよび論旨に一貫性のある解答が求められている。

記述にあたっては、濃い鉛筆ではっきりと文字を書くなど、他人が見て読みやすいよう心掛ける。誤字、脱字、当て字のないようにする。試験前の「注意」の中で説明された「書き方」に従う。一般に論文試験では、箇条書きは相応しくないとされる。論題と関係のないことが書かれている場合（職歴、受験動機など）は、字数を増やすためと見なされる。

解答例について

論題の捉え方については、受験者によっていろいろな視点や考え方があるので、決まった正解はない。論題の趣旨を理解した上で、論旨をどう展開していくかの参考として、サステナビリティの社会的意義とも関連させながら環境関連の取り組み事例も絡めて述べる解答と、SDGs・品質・規格化をキーワードに自分の意見を述べていく解答の2つの例を示す。

解答例1

サステナビリティは持続可能性を意味し、同時に、その考え方や活動を表す。サステナビリティの社会的意義は、現在、私たちの地球環境や社会が多くの問題を抱える中で、環境への配慮、資源の乱用抑制、また、劣悪な労働環境の改善を行い、経済成長をさせながら、次の世代のために環境と社会を維持・発展していくことにある。

現在、繊維関連産業ではサステナビリティにかかわる様々な取り組みが行われており、環境問題関連だけでも、3Rの推進、環境配慮型素材の使用、CO₂排出や水使用の削減にかかわる取り組みなどがある。今後もそれらを推進していくことは重要であるが、一方で、商品価格が高くなってしまったり製品としての機能や魅力の低下、また、現状の技術での限界などの課題も多い。そしてまた、環境問題に関することで特に重要なことの一つは、消費者の意識・行動である。たとえば、リサイクルの場合、生産・販売側の取り組みとして、販売店に回収ボックスをおいても、消費者が回収に協力してくれなければリサイクルシステムが成り立たない。

幸いなことに、サステナブルの考え方や活動は、消費者にも徐々に浸透しつつある。しかし、取り組みの成果が必ずしも十分とは言えないのは、消費者のサステナビリティに対する意識や行動、また、その背

景にあるものはまだまだ調べられておらず、消費者に効果的な発信ができていないように感じる。現状のサステナビリティの取り組みの課題と照らし合わせながら、消費者というヒトと、繊維製品というモノの両方の特性とその関係をより深く調べ、生産・販売側と消費者側の両方に情報の共有・発信を行い、今まで以上にサステナビリティに貢献できる行動を促す必要がある。そして、このことは、繊維を広く良く知る者だからこそできる TES の役割でもあると考える。

解答例 2

サステナビリティは、社会、経済、環境、健康などが将来にわたって現在の価値を失うことなく維持・発展することを目指す考え方である。この考え方については、以前から、国際的な会議の場で議論されてきており、その結果として、2015年の国連サミットでSDGsという17の具体的な目標が掲げられた。その社会的意義は、前述の将来に向けた維持・発展であり、同時に、新たなビジネスチャンスの拡大につながることもである。また、多くの国や企業、そして個人のサステナビリティに対する認識や意識が変わり、これらの目標に取り組み出してきたことにも、社会的意義があると言える。

SDGsに見られる国際連携・協調を鑑みる時、繊維産業での取り組みをさらに進めるには、繊維製品の持つサステナビリティに関連する価値も、広い意味での「品質」と捉え、その「品質」を評価する規格化などのルール作りを進めるべきと考える。これについては、現時点でもサステナビリティにかかわる機能面の規格や関連する多くの認証があるが、今まで以上に、消費者に理解してもらうため、また、生産者側にも推進してもらうためには、公的でより大規模に系統化した国際的な規格・規則や認証が必要と考える。たとえば、製品のタグに、サステナブルの素材やサステナブルな機能を有していることの表示、またこの商品でどうサステナビリティに貢献できるのかの絵表示を規格化していくべきと考える。そして、サステナブルにかかわる機能の品質試験の規格化などと共に、それらを繊維関連サステナビリティの一群の規格グループとしてまとめるのはどうだろうか。

規格・規則や認証は、制約や抑制と捉えられがちな面もあるが、一方では、生産・販売側にとっては新たな市場開拓の機会が生まれる可能性がある。そして、そのことが繊維業界全体の経済の持続・発展に寄与できる可能性を持っているのではないかと考えられる。